

校長室より

令和 5年2月28日
校長 植野 博之



令和4年度も、2月も終わり、3月を迎えようとしています。

3月は別れの季節でもあります。3月1日に二学部（通学生）高等部3年生の卒業式を迎え、3月14日には、一学部（和歌山病院入院生）の小中高等部の卒業式と二学部（通学生）中学部3年生の卒業式を迎えます。

高等部生においては、いよいよ学校生活を離れ、社会への第1歩となります。お互いに様々な個性を持ち合わせ、その中で3年間、お互いを高め合ってきた仲間でした。年々、友達同士やいろいろな先生との仲やきずなも深めあい、それぞれがまた違った進路を歩み始めます。

不安や期待も多い中、これからの新しい世界へ飛び込みます。

でもこれまで支え合った仲間達は、ずっとこの3年間の思い出を胸に旅たち、励まし合うことと思います。卒業おめでとうございます。

卒業おめでとう



一学部（和歌山病院入院生）卒業生

令和4年度は一学部（和歌山病院入院生）の高等部卒業生は1名です。卒業後も和歌山病院の入院を継続します。

小学部1年生から入学し、高等部3年生までの12年間をみはま支援学校で過ごし、いろいろな先生や友達との授業や行事等でたくさんの思い出を作ってきたことと思います。

何よりもこれからも元気で健康に、力強い瞳でみんなにパワーを与えてください。



二学部（通学生）高等部3年生卒業生を送る会

2月24日（金）には、二学部（通学生）の送る会がありました。3年生たちが自分で考えた面白いクイズを在校生や先生たちに答えてもらい、会場も一緒に考え、楽しみました。軽音楽グループが元気の出る演奏をしたり、在校生から卒業生へプレゼントをしたりと、別れを惜しんでいました。

二学部（通学生）高3の13人が卒業してしまうと、とても寂しくなりますが、後輩もあこがれの先輩達を目標に、これからもみはま支援学校を盛り上げてくれると思います。



メタバースを活用した作品展 和歌山かがやき展におけるロボット操作

本年度みはま支援学校では、メタバースと教育の可能性を探りながらニューメディア協会と連携しながら、メタバース上での仮想空間を活用した作品展覧会をしました。20作品ほどですが、本校の書道、美術やものづくり製品や紙工作等メタバース上に展示しています。外部の方も展示を見ていただき、その作品の評価等アバターを通して、選択芸術書道グループ高3生徒が作品の説明や評価を外部から受けました。

外部からの素敵な嬉しい評価から、生徒たちも自分でも気づかない視点からの気づきや評価もいただき、とても喜んでいました。

和歌山かがやき展の時には、ロボット（KubiやTemi）を通して、本校生徒がみはま支援学校から遠隔で操作しました。Kubiを通して田辺市のビックユー会場におられる和歌山県教育長と作品について話したり、来場者とやりとりしました。またTemiを通して遠隔操作で現地の会場内を本校生徒が順番に観覧しました。思ったよりロボット操作がうまくでき、みんな大きな会場を自在に観覧しながら操作していました。

今後も遠隔ロボットやメタバースを教育の中で有効に活用して、生徒たちの意欲と達成感の一助になればと思います。

メタバースと教育の可能性



みはまメタバース作品展示

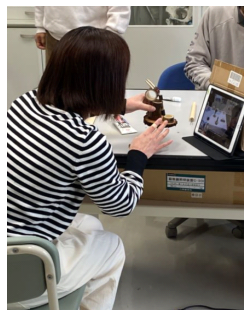


アバター観覧者との作品説明を通したやりとり

和歌山かがやき展にて



和歌山県教育長へのKubiを通した作品説明



学校よりIpadで遠隔作品説明



Temiにより田辺ビックユー会場内を本校より遠隔観覧